

保護司会だより

編集・発行：薩摩保護区保護司会 薩摩川内市・さつま町 薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内）☎0996-41-6196 FAX 0996-41-6196

保護司会として支えていきたいと考えています。

また、委嘱を受けた保護司が処遇活動等で不安や悩みをかかえても、更生保護サポートセンターを活用した保護司同士の情報交換や、ベテラン保護司が経験の少ない保護司をサポートする複数担当制の活用等を通じて経験の少ない保護司を支援していくことで、それぞれの保護司が意欲的に活動できるよう保

保護司活動は保護観察や生活環境の調整による犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援する活動（処遇活動）と、犯罪や非行を生まない地域作りのための活動（犯罪予防活動）を両輪として安全・安心な地域作りを目標としています。

しかしながら、その活動を行う保護司の確保が全国的に難しくなっているのが実情です。

そのような中で私たち薩摩保護区では行政・民生委員・社会福祉協議会・青年会議所・更生保護女性会・BBS会の方々に委員として参加いただき保護司適任者の人材情報の提供や地方公共団体の職員の保護司への就任について協力を求める「保護司候補者検討協議会」を設置して新人の発掘、その確保に努力をしています。

薩摩保護区保護司会は薩摩川内市とさつま町をそのエリアとして北支部・南支部・東支部・西支部・さつま支部の五つの支部に分け、現在八十六名で活動をしています。

保護司活動は保護観察や生活環境の調整による犯罪や非行をした人たちの立ち直りを支援する活動（処遇活動）と、犯罪や非行を生まない地域作りのための活動（犯罪予防活動）を両輪として安全・安心な地域作りを目標としています。



薩摩保護区保護司会
会長 田中 那なか みのる

会長 田中 那なか みのる

「保護司の安定的確保」について

更生保護：立ち直りを支えるしくみ

罪を犯した人たちの立ち直りを助け、再び犯罪や非行に陥るのを防ぐしくみを更生保護といいます。

更生保護ボランティアとしての
直接的な支援

保護司としての支援
保護司は、刑務所や少年院から出て「保護観察」を受けることになった人などを指導し、相談にのったり、様々な支援を行う民間のボランティアです。

協力雇用主や更生保護施設の職員として支援

地域社会に
復帰

地域の人たちの理解と協力

住居が必要

“社会を明るくする運動”に参加する。

地域との
絆が必要

刑務所や少年院、職業訓練などで
作ったものを購入する。

仕事が必要

更生保護ボランティアを支援する。

更生保護女性会員やBBS
会員として支援

罪を犯した人の立ち直りを見守り、
彼らの存在を受け入れる

薩摩地区更生保護サポートセンターは、次の様な事に利用できます。

1. 地域住民からの犯罪・非行に関する相談の窓口
2. 地域における関係機関・団体との連絡・協議
3. その他更生保護に関する活動（ご相談下さい）

所在地

薩摩川内市大小路町14番5号（薩摩川内市中央公民館内）

名 称

薩摩地区更生保護サポートセンター（薩摩保護区保護司会事務局）

電 話

0996-41-6196 FAX 0996-41-6196

令和元年
10/12

令和元年度薩摩川内地区 学校長・薩摩川内警察署・ 薩摩川内市との合同研修会・情報交換会

学校・警察・行政等と連携し、犯罪や非行のない明るい社会つくりに務めています。(写真は前年度分)



令和元年
12/19

第3期定例研修会＆情報交換会

今回は「刑の一部執行猶予制度の現状」という研修テーマで、鹿児島保護観察所の馬場観察官から講話があり、事例研修やグループ討議等を通して理解を深めました。



令和元年
11/28

令和元年度視察研修 更生保護施設「草牟田寮」 及び「鹿児島保護観察所」

更生保護活動に活かすために、関係更生保護施設等の視察研修を実施しています。



令和2年
2/18

令和元年度 各支部処遇会議

保護司相互の情報交換の場として各支部で処遇会議を開催し、研修・情報交換会及び懇親会等を実施しています。



令和2年
5/27

令和2年度薩摩保護区保護司会 総会／第1期定例研修会

令和2年度の活動等について総会を行い、その後、定例研修会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染防止のために今年は紙面決議となりました。1年間に定例研修会を3回、各支部での処遇会議等を実施しています。(写真は前年度分)



令和2年 7/1 薩摩川内市 令和2年 7/2 さつま町

令和2年度「社会を明るくする運動」薩摩川内市長及びさつま町長への総理大臣メッセージ伝達式

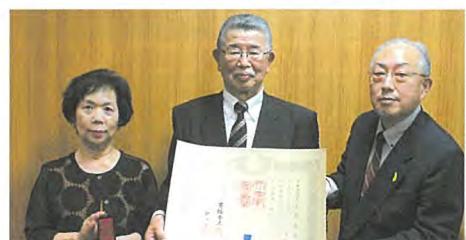
「社会を明るくする運動」は、法務省が主唱し毎年7月を強調月間として全国で展開をされています。再犯防止に向けた取組や本運動に對して理解を求める内閣総理大臣メッセージの伝達式を薩摩川内市役所及びさつま町役場で行いました。



令和2年
7/22

吉内孝徳保護司 「春の叙勲」受章

令和2年度春の叙勲及び褒章の受章者が発表され、薩摩保護区から吉内孝徳保護司が栄誉を受けました。(コロナのために東京での授章式が中止になり鹿児島保護觀察所にて授章式が行われました)



犯罪を起こしてしまった人は、「自分は社会に必要な人間だ。」「自分の味方などだれもいない。」と思っているのではないだろうかと私は考えます。そのような思いが心の中にどんどんたまつていって、悲しくて、苦しくて、もうどうしようもなくなつていつて、その気持ちが社会に対する「怒り」に変わつていつた結果、犯罪を起こす気持ちになつてしまふのだと 思います。

そして、その犯罪を起こしてしまつた人にも家族がいます。ただでさえ自分の身内が犯罪を起こしてしまつたことでショックを感じていると思うし、「犯罪者の家族」として世間から見られるだけで、その

しかし、私とはちがう考え方をもつて、いる人がいました。それは、NPO 法人代表の方で、その人は、「死にたいなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」と言うのはやめよう。この、ような言葉を受けとった、犯人と同じ思いを持つ人は、社会は何もしてくれないという思いを募らせるのかもしれない。社会はあなたを大事にしているし、何かできるのかかもしれない。社会はあなたの言葉を軽視していないし、死んでほしいと思っている人間など一人もいない、といふ強いメッセージを発信していくべきだと思う。」
「う事を言つて、いま」と。

最近、多くの人を傷つけた犯人が自ら命を絶つという事件が起きました。テレビやインターネットなどでは、犯人について「死にたいなら人を巻き込まずに死ぬべきだ。」「死ぬのなら人に迷わくをかけた。私は、この事件の報道を見て、とても悲しくなりました。同時に怒りの気持ちもわき上がりました。そして、大切な家族や友達が殺されてしまつた。犯人は一人で死ぬべきだと思つていました。

誰もが必要とされる社会を目指して

作文コンテスト

第69回（2019年）
「社会を明るくする」



後的生活は苦労の絶えないものになつていくのだろうと考えられます。そんな中で、「一人で死ねばいい。」などといった報道を目にすることは、想像を絶するくらいつらいことなのだと思います。

自分は社会に必要ない、と思っている人がいるのならば、そういう人たちが少しでも社会の中で自分が誰かのために役に立つていると、いう喜びを実感できる仕組みが、できればいいと思います。今、小学生である私には、大きなことはできません。私にできることは、何だろう? いろいろ考えてみました。一つは、自分から進んで、いいさつをすることだ、と思います。また、私は地域では、登校時に、「見守り隊」と呼ばれる人たちが、主に交通量の多い横断歩道で交通指導をしてくださっています。自分から、いいさつをすることだ、とても喜んで、もらいました。あいさつを通して、「人とつながる喜び」を感じました。あいさつのあふれる地域を実現することで、だれもが地域の一員としての所属感をもつことができるのだと思います。

また、私は学校で、六年生として、昼休みに下学年と一緒に遊ぶ活動をしてきました。お昼の放送で呼びかけると、たくさん的人が集まってくれて、一緒に楽しくおにぎっこやケイドウをして楽しみました。

「またやりたい! 楽しかったよ! ありがとう。」と、言つてくれた一年生は、とても嬉しそうでした。こうした自分の活動によつて、「学校に来てよかつた。」という誰かの喜びをつくることができたことは、とても意味のあることだ、と思つたので、これからも続けていきたいと思います。

他にも、私はクラブ活動や委員会活動でリーダーをしています。このように、わたしは学校の中に自分の役割があり、学校の役に立つて、いるという実感をもつています。人の役に立つということは、私の大きな喜びとなっています。

「死にたいなら人を巻き込まずに自分だけ死ぬべき。」死ぬのなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。といった意見は、被害者のことを考えると、気持ちはずごく分かるし、そのような気持ちになるのは当たり前のような気がします。しかし、本当の意味で社会全体から犯罪を減らしていくために、「この社会の中で必要とされていない人なんて誰もいない。」ということをみんなで考えていくことが大切だ、と思います。この言葉を胸に、私はこれからも自分から人を大切にできる人間として、生きていきたいです。

令和2年度薩摩保護区保護司会理事役員名簿

支部名	役職名	氏名	学校連絡保護司
南	会長	田中 実	れいめい中
東	副会長	村原 政和	黒木小、祁答院中
東	副会長	永山 伸一	東郷学園
北	事務局長 サポートセンター長	福山 義幸	亀山小、川内北中
南	会計	加治屋 卓朗	平佐西小、平佐東小
北	北支部長	伊東 正	育英小、城上小
南	南支部長	鹿子木 努	平佐西小
東	東支部長	初田 健	入来中
西	西支部長	蔵元 保海	中津小、上甑中
さつま	さつま支部長	勝田 俊治	山崎小

支部名	役職名	氏名	学校連絡保護司
南	犯罪予防部長 駐在保護司	野平 誠	川内中央中
南	協力組織部長	永留 博文	川内南中
北	研修部長	齊藤 治城	八幡小
さつま	総務部長	山下 英雄	盈進小
南	社会貢献活動部長	久木野 紋	隈之城小、川内南
さつま	理事	柏木 幸平	宮之城中
東	理事	徳永 幸夫	樋脇小、樋脇中
北	監事	小田原 勇次郎	可愛小、川内北中
さつま	監事	小椎八重巳 年	宮之城中
北	事務局次長	松下 昭子	高来小、城上小、平成中

令和2年度薩摩保護区保護司会学校連絡保護司名簿

支部名	氏名	学校連絡保護司
南	宮田 洋子	永利小
南	尾曲 祐一	隈之城小、川内南中
南	井上 光男	峰山小
南	山元 貴代	平佐西小、川内中央中
南	岩元 ひとみ	隈之城小
南	西一徳	永利小
南	内田 一樹	川内小
南	有馬 貞喜	平佐西小
南	中内カネ	川内小
南	山之内 文夫	峰山小
南	吉内孝徳	川内小
南	中川 一朗	隈之城小、れいめい中
南	軍神 利喜男	川内中央中
南	松元邦明	川内小、川内中央中

支部名	氏名	学校連絡保護司
東	田島 功輔	副田小
東	村岡 文正	入来小、入来中
東	大田 純一	樋脇小、樋脇中、市比野小
東	水流 信雄	大馬越小、入来中
東	笹森 純一	市比野小
東	村上 真理子	市比野小、樋脇中
東	岡野 龍信	蘭牟田小
東	田島 洋輝	祁答院中、大妻小
東	平林 輝美	大妻小、祁答院中
東	田代 幸一郎	東郷学園
東	石原 稔雄	祁答院中、上手小
東	瀬戸山 義弘	樋脇小、樋脇中

北	田中 晴樹	可愛小
北	三浦 美幸	育英小
北	宮田 修一	育英小、八幡小、川内北中
北	尻無濱 一喜	育英小
北	神田 隆美	可愛小
北	亀田 信暁	水引小
北	大村 恵美子	水引小、水引中
北	手打 哲也	水引小
北	加藤 信行	亀山小
北	黒屋 善文	亀山小
北	下園 紗子	水引小、水引中
北	大園 喜一郎	育英小、八幡小
北	檣木 敏文	水引小、水引中
北	山口 就太郎	可愛小
北	中間 則行	水引小、水引中

西	加来 賢隆	手打小、海陽中
西	小村 昌治	鹿島小
西	下江 伊八郎	海星中
西	野島 秋彦	里小、里中
西	中野 力丸	長浜小
西	野島 孝信	里小、里中

東	中村 健一郎	東郷学園
東	山下 浩一	東郷学園
東	内野 久子	東郷学園

さつま	久保 敬作	佐志小
さつま	野崎 華子	宮之城中
さつま	三腰 鈴子	盈進小
さつま	浜崎 典子	盈進小
さつま	中山 幸男	宮之城中
さつま	東 哲雄	鶴田小
さつま	木下 賢治	中津川小
さつま	新改 幸一	柏原小
さつま	福山 道徳	求名小
さつま	水口 売一	永野小
さつま	手塚 良平	流水小
さつま	堂ノ脇 一則	盈進小
さつま	徳留 昇	山崎小
さつま	小森 良峰	求名小